

平成27年度 第2回鳴門市教育振興計画審議会 会議概要

【開催日時】：平成27年7月9日（木） 午後1時30分から午後4時まで

【開催場所】：鳴門市消防庁舎3階 北会議室

【出席者】：審議会委員15名

阪根委員、木村委員、大岩委員、先田委員、佐藤委員、大黒委員、高田委員、多智花委員、鍋島委員、西川委員、延本委員、藤井委員、矢金委員、矢野委員、山本委員
鳴門市 11名

教育長、教育次長、教育総務課長、生涯学習人権課副課長、教育支援室長、体育振興室長、学校教育課主幹、学校教育課長、事務局 3名

傍聴者 なし

○次第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 審議会委員紹介

5 議 事

(1) 前回審議会の概要について

- ・アンケート調査結果（満足度・重要度）について
- ・教育振興計画の基本的事項について

(2) 現状と課題（まとめ）、基本構想（案）について

6 その他

7 閉 会

○会議資料

次第

【資料1】 鳴門市教育振興計画審議会委員一覧（H27.7.9現在）

【資料2-①】 平成27年度第1回教育振興計画審議会会議概要（前回会議録）

【資料2-②】 アンケート調査結果（満足度・重要度）について

【資料2-③】 教育振興計画の基本的事項について

【資料3】 現状と課題のまとめ、基本構想（案）

【参考資料】 鳴門市教育振興計画策定に係る調査（園長・学校長）（平成26年度実施）

○会議概要

- 1 開会
- 2 阪根会長があいさつを行った。
- 3 安田教育長があいさつを行った。
- 4 審議会委員紹介
- 5 議事

議事（1）前回審議会の概要について

・アンケート調査結果（満足度・重要度）について

事務局より、資料2-②に基づき説明をした。

会 長

このデータ処理について、ご質問はいかがか。ここから何を読み取るかであるが、本市の強みと弱みが出てくる。強みは皆さんが重要と思い満足しているものである。弱みは重要だけれど満足していないものである。重要度が低くても施策としては重要なものもあるが、優先順位は重要度の高いものを優先していくことがより住民のサービスにつながるだろうということである。では、これをどうしていくのか。満足度を先に高めていくのか、それとも重要度を先に高めていくのか。重要度が低いと思われていても審議会で重要なものは重要度を高めていく。つまりデータから意識的に縦寄せをしていく。重要度よりも市民の満足度を重視するならば横寄せをしていく。では、この縦寄せ、横寄せをするためには何ができるのか。振興計画にどう盛り込まれていくのか。このように見て頂ければと思っている。何か質問はいかがか。（⇒特になし）。それでは、このデータにて進めていきたいと思う。このデータを1つの参考として、これからご審議をお願いしたい。教育振興計画の基本的事項について、事務局より説明をお願いします。

・教育振興計画の基本的事項について

事務局より、資料2-③に基づき説明をした。

会 長

今回の基本構想について、前回ご審議の修正として、必要に応じて見直すのではなくおおむね5年で見直すという1つの区切りを作ったということである。また、前回説明できなかった現状をご提示申し上げた。勉強はできずスポーツができているのが現状である。徳島県全体（学力）は40位代である。今年の結果がどうなるかはわからないが8月に結果が出る。それにより、再び40位代になるのか、それとも30位代と若干上がるのか。小学校の成績だけがものすごく悪く見えるがこれにはしかけがある。中学校になると、徳島県は私学に進学する者が少ないが、例えばK県は私学が進学の方が多いため、公立だけで（学力調査の）比較をすると、学力が中学校では最下位グループに入る。そのようなグループの中において徳島は中学校がほぼ全国平均だというのは小学校の状況と変わらないと思ってよいだろう。徳島県の学力対策委員会をしており、改善策を立てている最中であるが、鳴門市においても課題となる。この問題がこれからお話する様々な振興計画の流れと大きく関わってくると考えて

おいて頂きたい。一方で、体育振興は鳴門らしいところで、全国から見ても鳴門は体力のまちである。特に全国平均を5ポイント上回るのは圧倒的である。ならばこの5ポイント上回ったものが他へつながっているのか、常に鳴門がなんらかの形で全国トップクラスにいるのか。体育振興において鳴門市が他に光るものがあるのかということにどうつながってくるのか振興計画との大きな関わりではないかと思う。施設については老朽化してきている。図書館会館は稼働している。(利用者数等の)数値が落ちているところにコメントを入れて頂きたい。改修作業中、システム変更等の言葉を入れて頂かないと、市民の方が見ると「どうしたのか」と思う方もいるだろう。これと先ほどの読書の話とを組み合わせると、鳴門市民は読書については、少なくとも満足度が高いとわかる。図書館の運営について、システム変更したことそのものが今後の上昇へとつながってくるだろう。非常に意味があると思っている。市民会館も同じである。公民館もよい動きである。体育施設も動いている。文化財について、残念ながら徳島県は国宝を持っていない為、重文が重要になる。重文は鳴門市でもこれだけの数があるため大事にして頂きたい。我々の誇りとなるべきだろう。どれだけ大切にしていくのか、そういう意欲が、渦潮が世界遺産になるかならないかにもつながってくると思う。今の説明を聞かれた上で、不明点、ご質問を受け、次に入っていきたいと思う。体育は本市だけがあるが、学力には本市のデータがないのはどうしてか。

学校教育課長

全国学力・学習状況調査を本市でも実施しているが、結果の公表については各自治体の判断に委ねることになっている。県内については、昨年度ほとんどの自治体が公表していない。本市においても公表することで、過度な競争が懸念され、教育委員会でも検討し公表しないこととした。申し訳ないのだが、ご提供できる資料が鳴門市独自の単独の資料がない状況のためご了承頂きたい。

会 長

本県は公表しないことを中核にしている。公表するかしないかは県によって全く異なる。E県は全市が公表している。K県は出ている市と出していない市がある。今はこうだが、今後変動はしてくるであろう。出さざるを得ない時期もくるのではないだろうか。

Q委員

徳島県は公表していないということは、県の教育委員会の方針か。

会 長

県の教育委員会の方針と同時に各市町皆さんの方針も含めてであろう。

A委員

教育現場にいた人間だが、市民も保護者の方も学力調査の数字が非常に気になる。平成19年度に実施された際、徳島県は低かった。なぜ先生も生徒も頑張っているのに全国平均より低いのか、非常に疑問であった。分析した結果、出題内容にあった学習指導ができていない

ということで、その年から学力調査の内容に照らし合わせた指導を現場の先生も努力された。翌年（平成20年度）は全国平均より0.1ポイント上がり、その翌年（21年度）はさらに全国平均を上回り、22年度までは全国平均も高く20位ぐらいまでいった。24年度から県全体が全国平均を下がり続けている。鳴門市は公表しないということだが、市教委としては、なぜ徳島県の子どもたちの学力が下がっているのか、点数だけではないが、調査でも保護者の重要度が高いのに満足度が低いという結果も出ているため、鳴門市としての分析、なぜ下がっているのかをどのように捉えられているのか教えて頂きたい。

学校教育課長

全国的にもスマホやゲーム等、通常の世界で子どもが使っている状況がある。本市においても同様な状況を感じている。これが原因だと確信を持って言える調査もできておらず、確信に迫るお答えは今のところできない。学校現場としては、学校ごとに対応方法を学校と保護者の間で、ある程度の公表を交えながら進めていくということで学力向上をはかろうとしている。

A委員

会長は県の学力向上推進委員に出られるとのことだが、県はどのように分析されているのか。

会長

1つは、徳島の先生はまじめだということが裏返しになっている。徳島で採択される教科書の1つの問題を、教科書と違った問題が出ると正解率がぐっと下がる。理由は、教科書についてはしっかりと教えているが、少し応用を変えるとできなくなる。学力の高いA県でも同じであるが、1つのものの教え方についてももうひと工夫が必要であろう。また、風土が影響しているだろう。徳島県は教育事務所体制を取っていない。K県だと、昔は教育事務所が10ほどあり（現在は2）、教育事務所の方が県からおりてくる様々な教育行政の仕事を行い、市教委と協力して対応している。徳島県の場合は県教委から何か通達がある場合は、教育事務所がないため、様々な仕事が直接市教委におりてきて、それをやると他の仕事ができなくなる。教育行政の総量は半端ない。理由は経済問題も外交問題も何か起きた時必ず教育関係を通し調査、通知が発生するからである。そのため、教育行政的な効率も徳島県は厳しいだろう。また、教育センターが板野郡にあるため研修会をする際、海部等の先生方は移動時間が何時間になるのか。他県は教育事務所に直接行ったり、サテライトで実施したりしている。様々な要因があると思う。そういう現実を見据えた上で、鳴門の子どもたちをどうしていけばいいのか。今後の統廃合の問題で、小規模校化をすると学力は上がらない。小規模は先生の配置ができなくなる。大きな学校には加配的配置ができる。徳島県は少人数、加配がなかなかしづらだろうという要因もあると思う。そう考える上で、鳴門が学力向上にどんな手立てをとっていくのか。スポーツがなぜ上がっているのか。社会体育、生涯体育という発想で、保護者達が動いているのだろう。先生方をお願いするのではなく、例えば、土曜日に学習会を地域（公民館）で開く、地域の人が教えるような鳴門市独特のまちの寺子屋といった取り組みを普通にできるようになると変わるだろう。強みと弱みである。鳴門市のこの

強みをうまく使えたらよいのではないだろうか。

F 委員

親の立場から、学力向上は学校だけではいけない。家でしないと向上しない。どうすれば家で勉強できるか。保護者と学校で子どもが家で勉強できるようにしていくことが必要だろう。どのようにすれば、子どもがやっていけるかを考えないといけない。体育も鳴門市は頑張っているが、国体になると徳島県は40何位となる。卒業後まで伸ばすことはできていない。受け皿が問題となってくる。学力についても伸ばして、受け皿等を作っていくことが必要だろう。

会 長

様々な手法があると思うため、支援していくことも必要だろう。

I 委員

公民館の立場からご意見を伺いたい。評価を見ると、公民館の存在は満足度も重要度も低い。鳴門市は公民館が12館ほどあり、9館が有人で館長がいる。鳴門市の公民館は館長も肩書等がなく勤務時間についても午前中のみであったりする。利用者が増えているのはうれしいが、満足度が低いのは指導する立場のレベルが低い。講師の斡旋もできない。土曜日の子どもの居場所作りとしているが、塾やクラブがあり、非常に少ない。この結果をどのように取り組めばいいか。いい知恵があればご教示頂ければありがたい。

F 委員

小中幼の保護者のアンケートのため、大人になると公民館はありがたくなる。大人のアンケートにすると満足度も高くなるのではないか。全体的なアンケートではないからではないだろうか。

会 長

明日、T県K町の教育委員会から呼ばれ、公民館で親子で新聞を読もうという講座をお願いされている。K町も公民館の満足度が難しい。利用してくれる方も年配の方のカラオケ教室の場といったイメージがあるがそうではない。新しい子どもや若者達が使え風土にしていきたいということでK町から頼まれた。さて本市は夏期短縮を中学で実施した。土曜日は学校を開いていないため、勉強をする風土を作る必要がある。市教委と協力し教材等を公民館に置いておく等の手立てをとることも一案である。あるいは我々の学生に手伝ってもらえるよう声をかける。これから連携をしていく時期だろう。皆さんからご意見を伺い、公民館の活性化を目指すといったことを学校と連携することは今回の計画に盛り込んでいけたらと思う。できる範囲でどんどんやっていければと思っている。

K 委員

ボランティアでも若い方はほとんどいない。小さいときからそのような環境でやっていくことが大切だろう。里浦小学校では公園の除草作業を学校教育の中で1年に1～2回ほどやっ

てくれている。1つの教育の一環だと思うので、1年に1回でもいいので、ボランティア、地域活動もやっていければと思う。

会 長

体育が強みというのはどうなのか。

U委員

陸上だけしかわからないが、鳴門高校の長距離5人新入部員が入ってきたが、すべて市外の子である。すごいとなると強いところ（学校）に行く。全国で戦うとなると学校のクラブ活動では対抗できない。この春、全国でもTVに出るような学校はこういうことをしていると見せることも必要であると思い、他校と一緒に合宿をさせてもらった。勉強も一緒だろう。教育関係者も進路、将来まできっちり考えないと大変だと思う。公民館でボランティアをするような人がたくさん出てきたらもっといいと思う。人口が少ないため、全県一区でいかなないと全国では対抗できない。予選を通すのは難しい。鳴門のスポーツは県下ではよいが、団体競技は予選に勝てないため天皇杯は少ないと思う。教員も不足している。できる者がやるという気持ちになればもっと学力も上がるのではないだろうか。

会 長

これから振興計画を作成する上で鳴門の強み、厳しさを意識した上で作っていくことが重要だと思っている。

B委員

学力、体力にしても家庭での指導、過ごし方が大きいということを理解しており、実感している。実態として、幼稚園の調査、小学校の調査ともに、放課後の過ごし方として、ほとんどの子どもたちが預かり保育、学童に行き、共働きが基本になっている現状において家庭で教育といわれても、実際には時間がない。では、子どもたちはどこで学んでいるかということと学童や預かり保育である。夏休みも学童、預かり保育に行っている。先生方が一生懸命少ない人数の中、してくださっているが、そこに学力向上、体力向上のためのテコ入れはできないだろうか。多くの子どもたちが貧困であろうが、どのような家庭環境であれ、同じようにそこにいるわけなので、公民館に行ければいいが、実際には行けない子どもたちにも工夫、マンパワーを構築していけないのだろうか。

会 長

鳴門の家庭教育は重視しないといけない中、若い母親から見るとうまく時間が取れない。それならば、鳴門で何か対応はできないか。総合的なことをこれから考えていかななくてはいけない。教育委員会のみならず市長部局も含め、横断的な対策が重要ではないだろうか。各界の皆さんが集まって下さっていることが重要である。皆さんからご意見をいただき、そして、市民みんなで鳴門をよくしていこうというまちづくりをしていきたいと思う。他県の人や徳島県の人々が鳴門に住みたいと、鳴門で育った子どもが県外の大学へ行っても鳴門に戻って仕

事をしたいと思える風土が振興計画の根本になってくるのではないだろうか。

議事（２）現状と課題（まとめ）、基本構想（案）について

事務局より、資料３に基づき説明をした。

会 長

今日このあと皆さんからご意見をいただき、一旦閉じ、次回、基本計画の構想についてご意見をいただければと思う。

B委員

基本構想（案）を持ってきて頂いてわかりやすくなった。第六次鳴門市総合計画基本構想における教育に関する記載内容というのは、もともと国の第２期教育振興基本計画を踏まえて起こしてきている内容で、県を踏まえて市としてといったイメージだと思うのだが、新しく案として提示頂いているものは、あと２年もすると国も県も計画が終わってくる。その先の何かを予測して立てていくことを求められているのか、それともこの中で鳴門市はこれがいいと話し合ったことでこれをやっていこうということなのか。

事務局

皆さんが審議されている内容を入れている。皆さんが審議されている内容も国の計画についても審議会で議論された中でできあがっているため、ずれはないと思う。子どもも人もどうやっていくかということで、心も体も勉強もスポーツも健康もすべて大事、素晴らしい人を作っていくという方向については議論の余地がないと思う。その方向性については、国が作っても県が作っても市が作っても同じである。鳴門市がこれを作る意義は鳴門市の独自性、強みを入れていくということである。

B委員

計画していく段階で、必ずしも言葉ばかりが重要というわけではないが、計画として、「生きがいと生きる力を地域とともに築く 教育のまち鳴門」が最後まで１０年間ついてくるし、実際にどういうものを基本的な視点として置くかということが重要だと思う。どういう文言で、実際にどんな姿を子どもに描くのが重要だと思う。地域が押されているが、主役は人であるので、それをどうしていくのかを考えていくことが必要ではないだろうか。

会 長

キーワードは１０年間使えるものにした方がいいのではということであろう。

U委員

家庭におけるしつけを入れた方がいいのではないだろうか。家庭の教育が一番であろう。

R委員

貴重なご意見ありがとうございました。保護者の立場として、3ページ、8番「人権の尊重と道徳心、公共心の育成」について、最近、難しい時代になってきており、声をかけたくてもかけにくい状況である。自分が住んでいる地域では、地域の自治会の方に定期的に子どもたちのむかし遊びや勉強のお手伝いをしてもらっており、関わる機会を積極的に作ってもらっている。鳴門市自体は具体的に今後どのような方法で、子どもたちが安心して地域の大人と関わっていけると思っておられるのか。

学校教育課長

現在、学校の中で行っている地域の触れ合いは、総合学習の時間等で地域の方と野菜収穫や避難訓練等を一緒にさせて頂いたりしている。市が統一的にというのは今後の課題だが、地域それぞれの特色、農林水産業について、各土地の独自性を持った取り組みを学校にもして頂ければと思う。

G委員

スポーツの指導を行っている。子どもに技術だけを教えていくと人として考える力が少なくなる。指導者も親も一人ひとりが子どもの手本となるようにしていくことが必要である。親も地域の一員としてどんどん外に出て行けば昔のようになるのではないだろうか。親も子どもの立場に立っていけば、考える力、生きる力が子どもにも身に付くのではないだろうか。

K委員

交流が一番必要ではないだろうか。地域、家庭、学校、行政と話に出ているが、預けっぱなし、任せっぱなしではなく、交流の輪をいかにして作っていくかが大事だろう。共通するところは、子どものためにとということである。事件や事故が起きた時に動くのではなく、それまでにいかに交流をして環境を作っていくかが大事である。

S委員

自宅での学習について、自分の子どもは児童クラブで宿題をしているが、家に帰っても可能な限り、親が協力できることはやっている。習い事もしているが、自分から好きでやっているため、文武両道で宿題も必ずやっている。家でできないことは学校でできるはずもない。工夫1つで解決方法はあるものだ。公民館について、T県A町は人口が多いため児童館も多い。公民館を開放し、催し物をすれば地域の活性化にもなるのではないだろうか。

O委員

子どもの教育は親がする。先生がする。地域社会がやる。一番大切なのは子どもをよくみて、情熱と愛情を注ぐということである。親も一緒に育たなくてはいけない。そのためには地域が育てることが大事である。社会教育の場面で大きく支えることが大切である。子どものためにということを忘れないでほしい。これからも皆さんの力で子どもを育てていこう。

T委員

鳴門市で協働が強調されているが、そのあたりを大事にしてこの計画を作してほしい。地域ぐるみという言葉は短いが、その中には、話し合いをし、しっかりと考えることが大切である。地域にはいろんな人材がいるため、どう発掘するかが課題である。地域文化財についても同じである。地域ぐるみをこれからもキーワードにして頂きたいと思う。また、アンケートの中にもあったが、鳴門市として、先ほどからいろんな言葉が出てきているが、鳴門市の強みから考えると、市民全体が鳴門市はこういう人づくりをするという共通理解をはかるものが必要だと思う。市民憲章を掲げている市町もある。そうすればもっといきいきとした鳴門になるのではないだろうか。

N委員

今、学校で家庭教育学級はしているのだろうか。(⇒やっている。)昔、家庭教育学級で講師をしていたとき講師代があった。

生涯学習人権課副課長

家庭教育学級について、過去、講師代を出していたときは補助金が出ていた。現在は補助が出ていないため、学校のPTAにお願いをして各校独自でやってもらっている。

N委員

昔は家庭教育学級を年に2～3回やっていた。当時はPTAの集まりもよかったが、最近はPTAの催し物をして人も集まらないようだ。家庭教育について、もっとPTAの活動をしっかりと充実させないと、難しいのではないだろうか。行政としてもそうした活動が活性化できる対策はないだろうか。また、保護者がしっかりとする必要がある。行政がPTA活動を活発化できる方針を打ち出してほしい。PTA活動が一番衰退した理由は、個人情報保護法ができ、各会員の方の連絡先がわからないということである。人集めの要因だと思う。せめて役員さんぐらいは連絡先の交換をしてもいいのではないだろうか。

Q委員

夏休みになると、毎年、ラジオ体操をやらないかと地域の子どもたちに言う。少子化になり、だんだん来なくなってきた。自分で早く起きてラジオ体操をするという自主性が必要だと思う。ある保護者は行く途中に交通事故にあったら責任を持ってくれるのかと言う。声掛け運動について、いつも夕方に散歩をし「お帰り」と言っている。最初は恥ずかしそうにするが、2～3回すると「ただいま」と返答してくれる。スポーツをしている子ははきはきしている。難しいところもあり、プライバシーの関係もあると思うが、道徳教育をしっかりと勉強してはどうだろうか。

F委員

子どもを中心に教育していかないといい大人になっていけない。子どもを中心に議論頂いている。(現状と課題のまとめ、基本構想案) 9番、10番は後の方になってくると思うが、

先に子どものお話をして頂きありがたいと思っている。

I 委員

地域の子どもは地域が育てるという姿勢でずっときている。地域で子どもを育てていくことをメインに今後も取り組んでいきたい。

H 委員

重要度の中に、地域での防災について載っていた。先日も会合をしたとき、どのような連絡方法を取るかといった話があった。子どもへの連絡方法について、子ども会がないため、どのようにすればよいか。地域と子どものつながりががないため、電話番号しかわからず、どの家にどんな方がおられるのかわからないため、どのようにしていけばよいか悩んでいる。地域の歴史や伝統文化の継承について、子どもに対して、地域の歴史や伝統文化を継承することは大切なことだと思う。板東俘虜収容所での紙芝居を行っているが、これからも鳴門市にとって、地域の歴史や文化を継承していけるよう頑張っていきたい。

A 委員

基本理念についてよくできていると思う。「教育のまち鳴門」はとてもいい言葉だと思う。教育は生涯学習の中で大人にとっても子どもにとっても大事であるため、この言葉はぜひ入れてほしいと思っていた。「つながる」という言葉が基本的な視点に出ているが、非常に重要だと思っている。鳴門市の教育振興計画を考えたときに、T県K町、A町は最近発展してきている。理由として、鳴門市は非常に広範囲であるが、K町、A町はまとまりやすい。鳴門市は広域にわたっているため市で1つのものをやるのは難しい。それぞれの町、地域が独自のものをいろいろとしている。そうした各町のよいものを市に広げていく振興もあるのではないだろうか。A大学の宣伝になるが、ボランティアクラブを大学で立ち上げている。30何名の学生がいるため力が必要なときはぜひ声をかけてほしい。

会 長

貴重なご意見ありがとうございました。私の実家のある市内は土地の調整区域が多いところであり、住居も商業施設も立たず、隣町が発展しきている。だが、逆に教育のまち、住みやすさがあり、自分の子どもたちも家を建てるのはどこかという今住んでいるところと違ってくれる。そういうまちづくりを今後していってもらえたらと思っている。

- 6 その他として、事務局より次回審議会開催について、8月5日（水）開催予定と伝えた。教育長より感想を伝えた。

7 閉会